平成29年度

イスラエル等訪問(渡航)結果報告書

平成29年11月18日(土)~24日(金)



綾部市 企画政策課

目 次

1.	概要・・	• • •	• • • •	• •	• • •	• • •	• • •	• • •	• • •	• • •	•••P1
2.	日程表•	• • •	• • • •	• • •	• • •	• • •	• • •	• • •	• • •	• • •	•••P3
3.	地図(位	置図)•			• • •	• • •	• • • •	• • • •	• • •	• •	•••P5
4.	日程の概	要••	• • • •	• •			• • •	• • •	• • •	• • •	•••P7
	11月19 11月20 11月21 11月22	98 (E 98 (E 98 (E 98 (Y	3)··· 4)··· k)··	• • •	• • •	• • •			• • •	• •	P7P8P12P15P20
参	考••••										••P24

1. 概 要

<趣旨・目的>

綾部市が平成12年(2000年)2月に日本の自治体で初めてエルサレム市と友好都市宣言を行って以降、中東和平プロジェクトをはじめとする事業を通じてイスラエルとパレスチナの和平に向けた取組を進めている。

平成15年(2003年)に綾部市で初めて実施した中東和平プロジェクトが10回目の節目を迎える中で、世界連邦宣言自治体全国協議会の会長でもある綾部市長がイスラエルを訪問し、これまでの取組に対する表敬を示すとともに今後の関係・交流のあり方についての確認等を行う。

〈日 程〉

平成29年11月18日(土)~24日(金)(6泊7日)

く渡航者>

役 職 等	氏 名
綾部市長	山崎 善也 やまざき・ぜんや
綾部市企画財政部企画政策課長	岩本 正信 いわもと・まさのぶ
綾部市企画財政部企画政策課連携推進担当長	鎌部 秀樹 かまべ・ひでき
通訳(京都学園大学非常勤講師)	矢野 裕巳 やの・ひろみ

<主な訪問先>

名 称	所在地など	主な内容
エルサレム市	エルサレム市内	○エルサレム市長ニール・バルカット氏 への表敬
		訪問
イスラエル・パ	ベイト・ジャラ	○紛争遺族会関係者(財務責任者エフラット・タ
レスチナ紛争	市内	ル氏ほか) との面談
遺族会		○中東和平プロジェクト参加者(平成28年高野
		町)サラム・アブファラ氏との再会
イスラエル外	エルサレム市内	○北東アジア局長オメル・キャスピー氏、前駐日
務省		イスラエル大使 ルツ・カハノフ氏ほかとの面談
在イスラエル	テルアビブ市内	○特命全権大使冨田浩司(とみた・こうじ)氏へ
日本国大使館		の表敬訪問
ペレス平和セ	テルアビブ市内	○国際・政策問題担当顧問ナダブ・タミル氏との
ンター		面談
ピースNGO	テルアビブ市内	○代表ユバル・ラハミム氏ほかとの面談
フォーラム		

<総 括>

- 平成12年(2000年)2月に友好都市宣言を行っているエルサレム市を表敬訪問し、ニール・バルカット市長と面会。両市の長期的な友好と交流について確認を行うとともに、今後の取組に関する担当者の調整等を行った。
- 平成15年(2003年)に綾部市で初めて実施して以降10回目の節目を迎えた中東和平プロジェクトについて、遺児たちを派遣してきているイスラエル・パレスチナ紛争遺族会(PCFF)や過去の参加者と面会。謝意を示し現在の状況等について意見交換、意向確認等を行うとともに、今後の取組の推進に向けて相互の協力を確認した。
- 3つの一神教(ユダヤ教、キリスト教、イスラム)の聖地があるエルサレム旧市街のほか、当該地域の歴史等に関わる様々な施設の視察、関係機関・関係者との面談等を通じて、イスラエル・パレスチナ紛争問題の歴史的、宗教的、政治的な複雑さを再認識した。

<所要経費> ※市負担分のみ

科目	執行見込額(概算)	備考
報償費	109,879円	訪問記念品
旅費	1,236,120円	航空運賃、日当・宿泊料
需用費	4,533 円	書籍など
役務費	174,240円	通訳・随行、傷害保険料
∓ =1//N	400 070 M	案内ガイド、レンタカー、遺族会面談、
委託料	489,270円	施設入館料など
使用料及び賃借料	14,196円	通信機器リース料
合 計	2,028,238 円	

※予算額 3,649 千円

2. 日程表

日 付	時間	内 容
11月18日(土)	7:30	綾部市役所出発
	9:45	関西国際空港到着
	11:55	関西国際空港出発
	13:55	仁川国際空港到着(搭乗時間2時間)
	15:00	仁川国際空港出発
	20:20	テルアビブ空港到着(搭乗時間 12 時間 20 分)
	21:40	エルサレム・ダン・パノラマ・ホテル到着
11月19日(日)	8:30	ホテル ∼9:00
		・<面談>和平活動団体・メムノシン研究所のラブ・ハナン・シュ
		レシンジャー氏
	9:30	エルサレム旧市街ほか ~12:30
		・<視察>嘆きの壁(ユダヤ教)、ヴィア・ドロローサ(イエスが
		歩いた悲しみの道)、聖墳墓教会(キリスト教)
		・<視察>展望山(スコープス)山、オリーブ山
	13:30	死海 ~14:30
	14:30	エリコ市内 $<$ パレスチナ自治区 $>$ $\sim 16:30$
		・<視察>世界最古のまちの遺跡
11月20日(月)	8:30	エルサレム旧市街 ~9:30
		・ < 視察 > シオンの丘、岩のドーム(イスラム)
	11:00	エルサレム市内 ~12:30
		・<視察>ホロコーストミュージアム
	14:30	<u>ハイファ市内</u> ~16:30
		・<視察>バハーイー庭園
		・<視察・面談>ティコティン日本美術館
11 🗆 01 🖽 (4.)	10.00	館長(博士)イラナ・スィンガー・ブレイン氏
11月21日(火)	10:00	 イスラエル外務省 ~11:00 ・<面談>北東アジア局長オメル・キャスピー氏、前駐日イスラエ
		ル大使ルツ・カハノフ氏、政治研究センター担当イスラエル・ストルロフ氏
	18:00	トルロフ氏 エルサレム市庁舎 ~18:30
	10.00	・ < 面談 > エルサレム市長ニール・バルカット氏、国際関係担当フ
		ランコイス・キャフリー氏、海外問題・メディア担当ラファエル・
		グリーンスパン氏
	19:00	ダジャーニ家 ~21:00
	10.00	・ < 面談 > パレスチナ・アルクドゥス大学教授モハメッド・ダジャ
		ーニ氏、ムンサル・ダジャーニ氏ほか
11月22日(水)	11:00	イスラエル・パレスチナ紛争遺族会<パレスチナ自治区> ~13:30
		・<面談>紛争遺族会関係者(財務責任者エフラット・タル氏、共
		同責任者マゼン・ファラ氏、ラミ・エルハンマン氏)、中東和平
		プロジェクト参加者(平成28年高野町)サラム・アブファラ氏

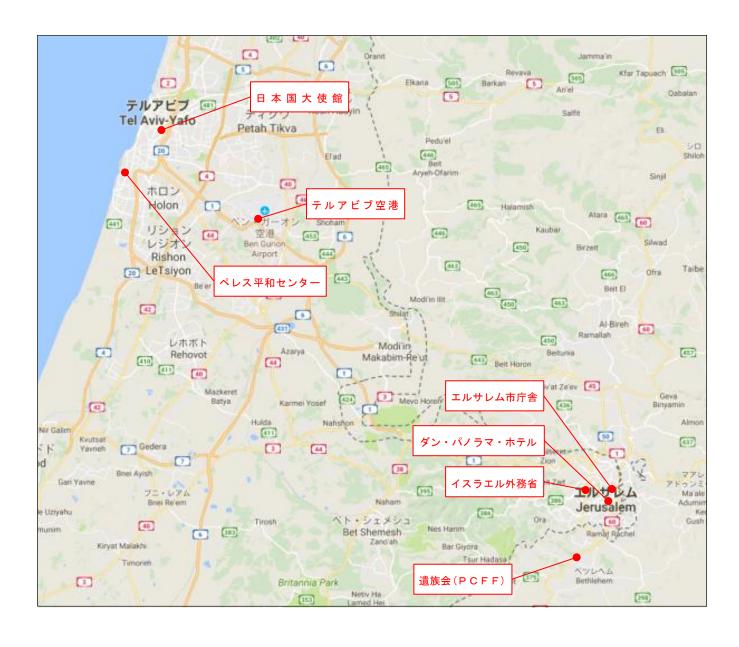
11月22日(水)	14:00	エルサレム市内 ~15:00
		・<視察>イスラエル博物館(死海文書展示)
11月23日(木)	9:30	在イスラエル日本国大使館 $\sim 10:00$
		・<面談>特命全権大使冨田浩司(とみた・こうじ)氏、専門調査
		員吉田恵(よしだ・めぐみ)氏
	10:30	テルアビブ市内 ~11:30
		・<視察>ヤッフォ旧市街
	13:00	ペレス平和センター ~13:30
		・<面談>国際・政策問題担当顧問ナダブ・タミル氏
	14:00	テルアビブ市内 ~14:30
		・<視察>イスラエル独立記念館
	15:00	テルアビブ市内 ~16:00
		・<面談>ピースNPOフォーラム代表ユヴァル・ラハミム氏(平
		成25年丹後、平成28年静岡引率者)、イレナ・レフコフ氏
	19:00	テルアビブ空港到着
	22:10	テルアビブ空港出発
11月24日(金)	15:25	仁川国際空港到着(搭乗時間 10 時間 15 分)
	19:05	仁川国際空港出発
	20:50	関西国際空港到着(搭乗時間1時間45分)
	24:00	綾部市到着

3. 地図(位置図)

<全域>



<エルサレム市周辺部>



11月18日(土) 天候:晴

【主な日程】

綾部市	7:30	○綾部市役所出発
関西空港	9:45	○関西国際空港到着
	11:55	○関西国際空港出発(大韓航空 724 便)
仁川空港	13:55	〇仁川国際空港到着
	15:00	○仁川国際空港出発(大韓航空 957 便)
テルアビブ市	20:20	○テルアビブ空港到着
エルサレム市	21:40	○エルサレム・ダン・パノラマ・ホテル到着(宿泊)

- ●渡航初日。綾部市役所を 7 時 30 分出発し市長公用車で関西国際空港へ。空港にて通訳・随行の矢野裕巳氏と合流し搭乗手続き。
- ●11 時 55 分発の大韓航空 724 便で関西国際空港を出発。仁川国際空港でのトランジット(約 1 時間)を経て、テルアビブ(ベン・グリオン)国際空港に現地時間の 20 時 20 分に到着(移動時間は約 15 時間 30 分)。
- ☞テルアビブ空港にて案内ガイドと合流し、レンタカーでエルサレム市へ(約50 km)。
- ●宿泊は、エルサレム・ダン・パノラマ・ホテル(以降5泊とも同ホテル)。

11月19日(日) 天候:晴

【主な日程】

エルサレム市	8:30	○エルサレム・ダン・パノラマ・ホテルにて和平活動団体・メムノシン研究所の
		ラブ・ハナン・シュレシンジャー氏と面談
	9:30	○エルサレム旧市街ほかを視察
		・嘆きの壁(ユダヤ教)、ヴィア・ドロローサ(イエスが歩いた悲しみの道)、
		聖墳墓教会(キリスト教)
		・展望山(スコープス)山、オリーブ山
死海	13:30	○死海を視察
エリコ市	14:30	○世界最古のまちの遺跡を視察

- ●現地活動1日目。ホテル内での朝食時を活用し、8時30分からメムノシン研究所のラブ・ハナン・シュレシンジャー氏と面談。メムノシン研究所はアメリカ・ダラスに本部を置く和平活動団体で、シュレシンジャー氏はガザ地区を中心にイスラエルとパレスチナの和平推進に取り組まれている。
- ●9:30 から3つの一神教(ユダヤ教、キリスト教、イスラム)の聖地が集まるエルサレム旧市街を視察。 旧市街西側に位置するヤッフォ門から旧市街に入り、嘆きの壁(ユダヤ教)、ヴィア・ドロローサ(キリスト教)、聖墳墓教会(キリスト教)を巡る。
- ■嘆きの壁は、ユダヤ教の神殿の一部が残ったところで「西の壁」とも呼ばれる。男性はキッパ(ナイロン製の小さい帽子)を着用して入場する。
- ●ヴィア・ドロローサは、イエスが十字架を背負って歩いたゴルゴダの丘までの悲しみの道であり、14のステーションがある。その終点に建っているのが聖墳墓教会で内部の復活聖堂(アナスタシス)にはイエスの墓もあり、各派により共同管理されている。
- ●旧市街を離れ、ヘブライ大学が近くにある展望山(スコープス)山を経由し、旧市街の東側にあるオリーブ山から旧市街を一望。
- ●午後は、エルサレム市を出発し、死海を経由しエリコ市に向かう(約 50 km)。海抜 800mにあるエルサレム市から-400mにある死海まで一気に下る。途中海抜 0m地点を通過。
- ●エリコ市は、死海の北西部にある町で、世界最古で最も低い場所にあるまちとも言われる。およそ1万年前の町の城壁跡とされる遺跡を視察。



↑和平活動団体・メムノシン研究所のラブ・ハナン・ シュレシンジャー氏(中央)とホテル内で



↑エルサレム旧市街の城壁(ヤッフォ門付近)





↑岩のドームと嘆きの壁を望む



↑嘆きの壁②



↑旧市街の様子



↑嘆きの壁①



↑ヴィア・ドロローサを巡る①



↑ヴィア・ドロローサを巡る②



↑聖墳墓教会前にて



↑オリーブの丘からのエルサレム旧市街の眺望



↑聖墳墓教会内部の壁画



↑聖墳墓教会内部の復活聖堂(アナスタシス)



↑海抜ゼロメートル地点(シーレベル表示)



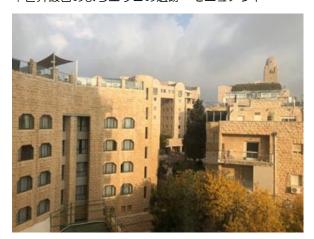
↑死海の様子



↑世界最古のまちエリコの遺跡



↑世界最古のまちエリコの遺跡・モニュメント



↑エルサレム・ダン・パノラマ・ホテル

|1 1 月 2 0 日(月)| 天候:晴

【主な日程】

エルサレム市	8:30	○エルサレム旧市街を視察
		・シオンの丘を経て岩のドーム(イスラム)へ
	11:00	○ホロコーストミュージアムを視察
ハイファ市	13:30	○バハーイー庭園を視察
	14:30	〇ティコティン日本美術館を視察

- ●現地活動 2 日目。当初 20 日午前中に予定していたエルサレム市長との面会が急きょ翌 21 日に延期となった時間を活用し、8 時 30 分から再度エルサレム旧市街を視察。
- ●旧市街の南側に位置するシオン門(シオンの丘周辺)から旧市街に入り、岩のドーム(イスラム)を巡る。岩のドームは、「神殿の丘」と呼ばれる聖地に建つ八角形の外壁と金色のドームを組み合わせた建物でエルサレムのシンボルともなっている。預言者ムハンマドが聖天した場所とされている。
- ●旧市街を出て11時からエルサレム市内へルツルの丘にあるホロコーストミュージアムを視察。ナチスによるユダヤ人大虐殺(ホロコースト)の犠牲者を慰霊し歴史を物語る国立の記念館で、庭園内には、「東洋のシンドラー」とも言われる杉原千畝(すぎはら・ちうね)の記念樹も植えられている。
- ●午後は、エルサレム市を離れハイファ市へ移動(約 150 km、約 1 時間 30 分)。ハイファ市はイスラエル 北西部に位置し地中海に面する同国第 3 の都市。
- ●ハイファ市内の高所からバハーイー庭園を展望。眼下にはハイファ市が一望できる。バハーイー教はイスラム教系の新宗教でありハイファ市とその聖地群は世界遺産にも登録されている。
- ●続いて 14 時 30 分からティコティン日本美術館を視察。以前から矢野裕巳氏や大本関係者と親交がある館長のイラナ・スィンガー・ブレイン氏と面会。館内には、オランダ人フェリックス・ティコティンが集めたとされる日本文化の作品などが並ぶ。当日は喧嘩凧、浮世絵の柱絵などが展示。







↑岩のドーム②



↑エルサレム市・中心街の様子



↑ホロコースト・ミュージアム・入口



↑ホロコースト・ミュージアムからの眺望



↑バハーイー庭園の眺望



↑ティコティン日本美術館①(右は館長のイラナ・スィンガー・ブレイン氏)



↑ティコティン日本美術館②(柱絵)



↑ティコティン日本美術館③



↑ティコティン日本美術館④



↑ティコティン日本美術館⑤

11月21日(火) 天候:雨

【主な日程】

エルサレム市	10:00	○イスラエル外務省を訪問
	18:00	〇エルサレム市を訪問
	19:00	○ダジャーニ家を訪問

- ■・現地活動3日目。初めての雨模様でかなり肌寒い天候。10時からエルサレム市内にあるイスラエル外務省を訪問し、北東アジア局長オメル・キャスピー氏、前駐日イスラエル大使ルツ・カハノフ氏、政治研究センター担当イスラエル・ストルロフ氏と面談。エルサレム市との交流、中東和平プロジェクト・世界連邦の取組の紹介、今回のイスラエル渡航の目的の説明、ルツ・カハノフ大使をはじめとする駐日イスラエル大使館へのお礼などを行った。
- ●オメル・キャスピー氏には、矢野裕巳氏を通じエルサレム市長への表敬に係る日程調整などの仲介に当たっていただいた。また、ルツ・カハノフ氏とイスラエル・ストルロフ氏は2日目訪れたハイファ市の出身。
- ●現地入りしてから急きょ日程変更となったエルサレム市長への表敬訪問のため、18 時にエルサレム市庁舎へ。市長との面会に先立ち、国際関係担当フランコイス・キャフリー氏、海外問題・メディア担当ラファエル・グリーンスパン氏の紹介を受け、今後の具体的な取組について調整を行った。
- ◆その後、応接室にて、ニール・バルカット市長と面会。短時間ではあったが、エルサレム市と綾部市両市の長期的な友好と交流について確認を行った。
- ■19 時からダジャー二家を訪問し、アルクドゥス大学教授であるモハメッド・ダジャー二氏、ムンサル・ダジャー二氏兄弟ほかと面会。いずれも矢野裕巳氏と面識があり、モハメッド氏は世界宗教者平和会議40 周年記念(2010 年)など、ムンサル氏は第28回世界連邦平和促進全国宗教者平和会議(2006 年)など日本での講演実績もある。



↑イスラエル外務省・入口



↑イスラエル外務省・会議室にて (右端からルツ・カハノフ氏、オメル・キャスピー 氏、イスラエル・ストルロフ氏)



↑イスラエル外務省・会議室にて



↑エルサレム市ニール・バルカット市長と①



↑エルサレム市ニール・バルカット市長、国際関係担当フランコイス・キャフリー氏(右)と



↑エルサレム市庁舎・中庭



↑エルサレム市ニール・バルカット市長と②



↑エルサレム市庁舎・玄関



↑ダジャー二家①(自宅内の書庫にて)



↑ ダジャー二家②(右端がムハンマド・ダジャー二氏、 左端がムンサル・ダジャー二氏)



↑ダジャー二家③

11月22日(火) 天候:雨

【主な日程】

ベイト・ジャラ市	11:00	○イスラエル・パレスチナ紛争遺族会事務所を訪問
エルサレム市	14:00	○イスラエル博物館を視察

- ●現地活動 4 日目。11 時からエルサレム市南側約 10 kmのベイト・ジャラ市内にあるイスラエル・パレス チナ紛争遺族会(PCFF=Parents Circle Families Forum)事務所を訪問し、財務責任者エフラット・ タル氏、共同責任者マゼン・ファラ氏、ラミ・エルハンマン氏のほか、平成 28 年高野町の中東和平プロ ジェクトに参加したサラム・アブファラ氏と面談。
- ●PCFFはこれまでの中東和平プロジェクトにイスラエル側とパレスチナ側の遺児たちを派遣する際の窓口になってきた団体。これまでの取組への謝意を示し現在の状況等について意見交換、意向確認等を行うとともに、今後の取組の推進に向けて相互の協力を確認した。
- ●エルサレム市内に戻り、14 時からイスラエル博物館を視察。約 2000 年前(第2神殿時代)のエルサレムの模型や1947年にベドウィンの少年が見つけたとされる世界最古のヘブライ語聖典(死海文書)などが展示されている。



・── ↑イスラエル・パレスチナ紛争遺族会事務所① 右から共同責任者ラミ・エルハンマン氏、マゼン・ ファラ氏



↑イスラエル・パレスチナ紛争遺族会事務所② 右から財務責任者エフラット・タル氏、中東和平プロジェクト参加者サラム・アブファラ氏



↑イスラエル・パレスチナ紛争遺族会事務所③



↑イスラエル・パレスチナ紛争遺族会事務所④



↑イスラエル博物館①



↑イスラエル博物館②(第2神殿時代のエルサレム市 の模型)



↑イスラエル博物館③(死海写本館の屋上部分)

|1 1月23日(木)・24日(金)| 天候:晴

【主な日程】

テルアビブ市	9:30	○在イスラエル日本国大使館を訪問
	10:30	○テルアビブ市内ヤッフォ旧市街を視察
	13:00	〇ペレス平和センターを訪問
	14:00	○イスラエル独立記念館を視察
	15:00	○テルアビブ市内にてピースNPOフォーラム代表ユヴァル・ラハミム氏、イレ
		ナ・レフコフ氏と面談
	19:00	テルアビブ空港到着
	22:10	テルアビブ空港出発(大韓航空 958 便)
	15:25	仁川国際空港到着(搭乗時間 10 時間 15 分)
	19:05	仁川国際空港出発(大韓航空 721 便)
	20:50	関西国際空港到着(搭乗時間 1 時間 45 分)
	24:00	綾部市到着

- ●現地活動最終日。7 時 30 分にホテルをチェックアウトし、エルサレム市を離れテルアビブ市へ移動(道程約 70 km)。
- ●テルアビブ市中心部にある在イスラエル日本国大使館を訪問し、特命全権大使の冨田浩司と面談。今回のイスラエル渡航の目的の説明、中東和平プロジェクト・世界連邦の取組を紹介した後、懇談を行った。専門調査員吉田恵(よしだ・めぐみ)氏が同席。
- 冨田浩司氏は、昭和 32 年生まれの 60 歳で平成 27 年 11 月から現職。中東アフリカ局長であった上村司 (うえむら・つかさ)氏と同期でもある。
- ➡続いて、テルアビブ市郊外のヤッフォ旧市街を巡り、港町の街並みや聖ペテロ教会などを視察。
- ●13時から故シモン・ペレス元大統領(第9代)が設立したペレス平和センターを訪問。ペレス氏は、イスラエル・パレスチナ間の和平活動に尽力し、1994年にラビン首相、アラファト議長とともにノーベル平和賞を受賞した。センターではペレス氏の秘書官でもあった国際・政策問題担当顧問ナダブ・タミル氏と面談。専門調査員の吉田恵氏も同行。
- ●その後、テルアビブ市中心部にあるイスラエル独立記念館を視察。この施設はもともとはテルアビブ美術館で、1948 年 5 月 14 日にダヴィド・ベン・グリオンによってイスラエルの建国宣言がなされた地でもある。
- ●15 時からテルアビブ市内のカフェレストランにて、ピースNPOフォーラム代表ユヴァル・ラハミム氏、イレナ・レフコフ氏と面談。ユヴァル氏は、平成25年京丹後市、平成28年静岡市の中東和平プロジェクト引率者でイスラエル・パレスチナ紛争遺族会に所属していたが、現在は独立し和平推進活動に取り組まれている。イレナ氏は元エルサレム市職員であり、ユヴァル氏のサポートをされている。
- ☞テルアビブ市内のショッピングセンターに立ち寄り、テルアビブ国際空港へ。搭乗手続きに時間を要することを想定し3時間前に空港入りしたが、比較的スムーズに進んだ。
- ■大韓航空の 958 便にて現地時間の 11/23(木) 22 時 10 分にテルアビブ国際空港を出発。仁川国際空港でのトランジット(約3時間 30分)を経て、関西国際空港に翌 11/24(金) 20 時 20分に到着。(移動時間約15時間 30分)
- ☞綾部市には市長公用車にて24時に到着



↑ 在イスラエル日本国大使館が入居するミュージアム・タワー・ビル



↑在イスラエル日本国大使館①(左は冨田浩司特命全 権大使)



↑在イスラエル日本国大使館②



↑テルアビブ市ヤッフォ旧市街①



↑テルアビブ市ヤッフォ旧市街②



↑聖ペテロ教会



↑ヤッフォ旧市街からテルアビブ市街地を望む



↑テルアビブ市ヤッフォ旧市街③(前方中央が時計塔)



↑ペレス平和センター・入口



↑ペレス平和センター・外観



↑ペレス平和センター①(右は国際・政策問題担当顧 問ナダブ・タミル氏)



↑ペレス平和センター②



↑ペレス平和センター③ (ノーベル平和賞記念メダル)



↑ペレス平和センター付近より(右から2人目が吉田 恵専門調査員)



↑テルアビブ市内・独立記念館①



↑テルアビブ市内・独立記念館②



↑ピースNPOフォーラム関係者とテルアビブ市内カ フェレストランにて



↑右端が代表ユヴァル・ラハミム氏、中央左側がイレナ・レフコフ氏

(参考)

<主な訪問記念品など>



記念品(エルサレム市)①



記念品(エルサレム市)②

<綾部市から持参した訪問記念品など>



記念楯(エルサレム市、イスラエル・パレスチナ紛争遺族会、ペレス平和センター)



色紙掛け(イスラエル外務省、エルサレム市、イスラエル・パレスチナ紛争遺族会)



風呂敷

品名	数量
記念楯	3セット
色紙掛け	3セット
お茶セット	3セット
扇子(黒谷和紙)	7本
日本酒(若宮酒造)	4本
風呂敷	25 枚
まゆピー人形	3体
まゆピーストラップ	20 個
その他(折り紙、お箸、手ぬぐいなど)	適宜